# 年度末報告書（実行団体）

● 提　出　日　：2022 年　　4　月　15　　日
● 事　業　名　：(埼玉県西部)「地域資源をしごとにする！」担い手育成 3 か年計画
● 資金分配団体　：特定非営利活動法人まちぽっと
● 実 行 団 体　：特定非営利活動法人エコ・コミュニケーションセンター(ECOM)
● 新型コロナウイルス対応緊急支援助成（通常枠での追加助成）の有無　：　☐有　☑無

① 実績値

| アウトプット | 指標 | 目標値 | 達成時期 | 現在の指標の達成状況 | 進捗状況＊ |
|---|---|---|---|---|---|
| 1,受講者が、プログラムの実施の段取りを立てられる(プログラム実施・運営力がある) | 年 2 回行う「発表検討会」でスタッフ、受講生、住民による評価を行う | 評価 60 点以上/受講者が、プログラムの実施の段取りを立てられる | 2021 年 3 月 | 受講生(現在 6 人)のほとんどがプログラムを企画・実施し段取りを立てられる | 2 |
| 2,受講者が、プログラムや事業を自分で考えられる（プログラム立案、事業企画の力がある） | 同上。「企画書が書ける」 | 評価 60 点以上/プログラムや事業を自分で考えられる | 2022 年 3 月 | 受講生のほとんどがプログラムを企画・実施し自分で考えられる | 2 |
| 3,受講者が、マーケティング、広報、集客の計画が立てられる（マーケティング、広報、集客力がある） | 集客目標達成率 | 60％以上/自分でマーケティング、広報、集客の計画が立てられる | 2022 年 3 月 | 受講生の 5/6 がマーケティング、広報、集客を経験し計画が立てられる | 2 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 4,受講者が、プログラムの意味や価値を的確に参加者に伝えられる（インタープリテーション力がある） | プログラム参加者の理解度、満足度 | 評価 60 点以上/プログラムの意味や価値を的確に参加者に伝えられる | 2023 年 3 月 | 受講者の半数がプログラムの意味や価値を参加者に伝えられる | 2 |
| 5,地域性のあるプログラムがつくれる（地域ブランディング力がある） | スタッフ、受講生、住民による評価 | 評価 60 点以上/どこででもできる汎用プログラムではなく、その地域でしかできない地域性のあるプログラムを作れる | 2023 年 3 月 | 受講者のほとんどが地域性のあるプログラムをつくれる | 2 |
| 6,川、里山、農業・農産物、林業・林産物を活用した事業開発 | 事業件数 | 15 件以上/受講者による事業開発ができている | 2023 年 3 月 | 研修未実施 | 2 |

＊進捗状況：1 計画より進んでいる 、2 計画どおり進んでいる 、3 計画より遅れている、4 その他

② 事業進捗に関する報告

| 1.事業計画に掲げた短期アウトカムの達成の見込み |
|---|
| 1.達成の見込み |
| 2.アウトカムの状況 |
| A：変更項目<br>☑変更なし　☐短期アウトカムの内容　☐短期アウトカムの表現　☐短期アウトカムの指標　☐アウトカムの目標値 |

| 3. 活動に関する報告 |
| --- |
| ≪里山食農スクール≫（高橋）　・「土の学校」を前期 4 回、後期 5 回実施した。参加者は 8 組。 内容は、①エディベリの畑(3-12 月、10 回、講師付き)5 組 ②里山保全活動(消防署裏の里山での落葉たい肥作り）・肝心の起業研修はあまりできていない→新しいメンバーを「薪をくべる」に集まっている若い人たちから募 る。<br>≪山林活用≫（神岡）　1)引きこもり対象者へのイベント仕掛けや、城北埼玉高校、東京芸術大学との繋がりができ、2022 年へのステップになった。 また、以前計画していた、小学生から の起業家意識アップを目指した駄菓子屋を開店できた。 この活動には、注力して実施していく。 2）今後 ①城北埼玉高校フロンティア学科との協働 2022 年 勉強や学歴が全てではないという考えのもと、様々な体験を経験し自分自身との整合性や適性を見極めていくような学科 「食糧」という観点 研究スタ ッフの知人である太陽グリーンエナジー社(埼玉県嵐山町)の 荒神代表取締役を生きた教材として、対面にて座学を開催(11月）「木材」という観点 フロンティア学科生徒は、学校内の棚などを DIY で実施 している。 現在はホームセンターで材料を購入している。その材料を、学生自身が伐倒の手伝いや草刈りし 製材して、棚に変えていく動きを予定。ホームセンターで売られている材料価格と 実際に作業し た時に、対価としての材料価格は見合っているのか。など社会構造などにも 思考を巡らせていく予定。 ②東京芸術大学との体験実施 2022 年 東京芸術大学川村そら氏と学生6 名を対象に嵐山町にある町有 林にて伐倒見学体験会を予定。 木材が流通する流れを、伐倒という上流から体験してもらうことで、木材を使う！という意味を 深化させていくのが目的。 川村氏も、積極的に連絡をくれる。 ③毛呂山町のゆずを活用した動き 耕作放棄されたゆず畑を、生かすための販路を創造中。 2021 年 11 月にゆず 20 キロを太陽グリーンエナジー社(埼玉県嵐山町)に納品 5,000 円の売り上げ ゆずジャムに。 商品になった時に、安定供給できる体制を作れるかが課題。 売価を高くして作業賃金を払えるように。 ④東久留米市氷川台門前氷川神社社務所活用PJ 小学生から起業家意識をイメージできるような活動を目指して実施している PJ。 就職だけが全てでない、これからは中央集権ではなく、個の力で生きて いく流れが増える。 5G の登場が個人間のやり取りが増してくる。 そんな時代を生きる将来の大人 ちに、今の教育では届かないお金を稼ぐ手段の話などをしていく。 主体→可能な限り小学生。店番・会 計・仕入れ(実際には仕入れたいものを決める)をやっている。利益はイベント企画の費用に充てていく。<br>≪こっこ班(企画)≫ 2 年目は 1 年目の企画を実施する自主活動。小川高校の 1 名は「ランタン上げ」を 3 月に実施する。中野さんは、外国人との共生の NPO をつくる→住民に(難民シェアハウスの)話を聴いてもらう、知ってもらう→3 月にイベントの予定。これらを一つにして相乗効果を狙いたい→8 月「花咲か祭り」(添付資料) |

≪アウトドア・ツーリズム≫（森）　・新たな受講生を募るために以下の企画を行った。
＜目的＞ 飯能から寄居にかけての埼玉県西部地域では豊かな地域資源を生かしての地域ツーリズムが 盛んになっています。その現場を訪れ起業家たちから話を伺い、自分たちの企画を考えます。 あわせて、質の高いツーリズムに求められるインタープリテーションについても学び地域資源の価 値や魂の伝え方を習得します。 ＜プログラム＞（全 5 回） ①10/2 地域ツーリズムを立ち上げる①(小川町まちの観光ステーション）9:30～12:30 ② 11/6 地域ツーリズムを立ち上げる②(明覚駅 駅前案内所ここから）9:30～12:30 ③ 12/4 am インタープリテーションの実際(田黒・遠山・下里）10～12:00 ④ 12/ 4 pm 講義「魂を伝える」（インタープリテーションの本質)13～15:00 ⑤ 1/8 地域ツーリズムのプランニングと自分の課題（東松山まちラボ）同上
・その結果やる気のある方数名が見つかった→この人たちに受講生として活動してもらう。
≪ 里山産業部会≫（長倉）
・里山産業見学会を 3 回実施(①あきる野市菅生「ふるさとの森づくりセンター」、②茨城県河内町の 「チョウザメ養殖」/同笠間市常陸の国出雲大社「樹木葬」、③市原市日本リノアグリ「みつばち牧 場」/長南町竹もりの里「竹の駅」）
・上記を踏まえて比企の里山産業の検討を具体化する話をした。

6. 新型コロナウイルス感染拡大に対して、事業活動を行う際に工夫した点

・打ち合わせ、会議についてはオンラインを活用し対面を減らした。
・野外での活動については予定通り実施した。

**③広報に関する報告**

1. シンボルマークの使用状況

☐自団体のウェブサイトで表示している　☐広報制作物に表示している
☐報告書に表示している　☑イベント実施時に表示している　☐その他
→「その他」を選択した場合は記載してください（自由記述）：

| 2.　広報 |
| --- |
| 1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB 等）<br>・フェイスブックページ「埼玉・花咲か研究所」に活動レポートを掲載（4/13,6/28,7/20,10/5,10/6,11/16,12/12,1/25）<br>2.広報制作物等<br>・受講生募集リーフレット「地元に花を咲かせましょう」2000 部<br>3.報告書等<br><br>4.イベント開催等（シンポジウム、フォーラム等）<br>・22/3/5「21 年度花咲か研究所活動報告・評価会」15 名参加・小川町図書館会議室 |

④規程類の整備に関する報告

| 1.　事業期間に整備が求められている規程類の整備は完了しましたか。 |
| --- |
| □完了　　□整備中 |
| 2.　整備が完了した規程類を web サイト上で広く一般公開していますか。 |
| □全て公開した　□一部未公開　□未公開<br>→「一部未公開」「未公開」を選択した場合の理由と公開予定日： |
| 3.　変更があった規程類に関して資金分配団体に報告しましたか。 |
| □はい　　□いいえ<br>→「いいえ」を選択した場合の理由： |

⑤ガバナンス・コンプライアンスに関する報告

| | |
|---|---|
| 1. | 社員総会、理事会、評議会は定款の定める通りに開催されていますか。 |
| | ☑はい　　☐いいえ<br>→「いいえ」を選択した場合の理由： |
| 2. | 内部通報制度は整備されていますか。 |
| | ☑はい　　☐いいえ<br>→「はい」の場合の設置方法（複数選択可）：☑内部に窓口を設置　　☐外部に窓口を設置　　☐ JANPIA の窓口を利用 |
| 3. | 利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。 |
| | ☑はい　　☐いいえ<br>→「いいえ」を選択した場合の理由： |
| 4. | 関連する規程の定めどおり情報公開を行っていますか |
| | ☑はい　　☐いいえ<br>→「いいえ」を選択した場合の理由： |
| 5. | コンプライアンス委員会は定期的に開催されていますか。 |
| | ☑はい　　☐いいえ<br>→「いいえ」を選択した場合の理由： |
| 6. | 報告年度の内部監査又は外部監査を実施予定ですか。（実施済みの場合含む） |
| | ☑内部監査を実施　　☐外部監査を実施　　☐実施する予定がない<br>→「実施する予定がない」を選択した場合の理由： |

**添付資料**

活動の写真（画像データは 1 枚 2 MG 以下、3～4 枚程度）

① 山林活用チーム「埼玉城北高校生徒の嵐山町有林での作業」

③食農教育チーム「里山整備について」

② アウトドア・ツーリズムチーム「インタープリテーション研修」